

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	集落名	大字	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	東区瀬戸地域	千種地区	二日市・保木・多田原・万富・大井・鍛冶屋・塩納・宗堂・坂根・南方・弓削・大内	令和4年2月10日	-

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	370.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	191.8ha
③地区内における75以上の農業者の耕作面積の合計	47.7ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.4ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	9.7ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	12ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

- 新規就農者がいない。農業大学、地域内の農業高校を卒業しても農業に従事する人がいない。
- 担い手が高齢化している懸念は以前からある。アンケート結果から75歳以上では59%が後継者未定で5年後には耕作面積が約22ha減少する見込みであることが判明した。後継者の育成が必要。
- 小さい農地が多く、大規模化の妨げになっている。
- 農道が傷んでいる。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

農業大学や地域の農業高校の生徒との交流を促進し、農業従事者を増やす。農業従事者を増やすためには農業収入を増やすことも必要であり、以前から地域内で作られているモモや太秋柿を特産品として産地化を目指す。販路を確保するため県外での青空市を開く。

地域内では畑作が多いので、畑作ができる環境を作る。高齢化が進む懸念があることから、退職者等が小さい畑で野菜や果物を作ることができるような環境も必要。

大型農業機械にも対応できるよう、農道を整備する。

農地の大規模化と集約化、道の駅開設または産直市の開催、農産物の産地化促進を行政に要望する。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。